

新工場を建設 旧工場FMS化

小松電機産業

シート
シャッター

生産倍増

超音波を利用した自動閉式シートシャッターで急成長している小松電機産業(本社島根県八雲村、社長小松昭夫氏)は新工場を建設、同時に現在の工場をFMS(フレキシブル生産システム)化した板金専用工場にする。二十六日着工、来年三月末完工の予定。総工費は約三億円。これにより、シートシャッターの生産量を現在の年間約千台(六十二年七月期)から六十四年七月期は二千台に倍増する計画。

新工場は現在の工場の隣接地に建設する。鉄骨軽量コンクリート(ALC)造り、三階建て。延べ床面積は現工場より三百三十平方メートル、千三百八十六平方

メートル。一階をシートシャッター、二階を制御盤や計装システムの専用工場にする。三階は当面集会所などを利用しながら将来の拡張に備える。

シートシャッターは、配電盤や制御盤メーカーの同社が六十年に開発した商品。車両が三層まで近づくと出入り口に付けた超音波センサーが働き、ピニ

ル製のシャッターが自動的に開閉する。「門番」の商品名で全国発売しており、車から降りずに開閉できることから工場や倉庫、工事現場などの需要が増えている。

新工場建設に伴い、シートシャッターや制御盤などさまざまな商品を製造している現工場は板金専用工場にレイアウトを變更する。コンピューター制御の

FMS工場とし、穴あけ、仕分けなどのラインを二十四時間無人運転できるようにする。倉庫も自動化する。島根県下の板金工場では初のFMS化工場となり、自社商品の加工だけでなく、外部の仕事も受注する方針。